

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち
施策分野	1	教育環境の整備

課（係）名	教育総務課	
作成年度	平成27年度（更新日）	平成27年4月1日

目的	管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H24年度末)	(H25年度末)	備考	
基本計画	児童・生徒が学習しやすいまちを目指します。	学校施設の耐震化率	100.0%	100%	27年度	97.0%	97.0%	
		教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数	7.7人	3.6人	27年度	11.5人	8.2人	
目的を達成するための具体的な方策	01 総合的教育行政の推進	小中学校施設管理のあり方検討会の開催	2回/年 (延べ9回)	延べ回数15回	27年度	1回/年 (延べ6回)	1回/年 (延べ7回)	
	02 学校施設の耐震化	学校施設の耐震化率	100.0%	100%	27年度	97.0%	97.0%	
	03 学校給食のあり方の検討	給食実施校（委託校を除く。）1校当たりの正規調理員の配置人数	2.1人 (15人/7校)	2.0人以上	27年度	1.7人 (17人/10校)	2.0人 (16人/8校)	年度末時点
	04 情報教育環境整備の充実	教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数	7.7人	3.6人	27年度	11.5人	8.2人	

市民との協働方策		《平成26年度末時点の活動状況》	《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 保護者と地域の方たちとの協働による教育環境の整備	市内全ての小中学校においてPTAと教職員による学校内の清掃奉仕作業を実施したほか、校舎内のペンキの塗り替え作業等、各種業界団体からの協力も得ながら教育環境の美化に努めた。また、PTAの清掃奉仕作業に必要なゴミ袋（700）は市で提供し、平成26年度では約2,800枚のゴミ袋を使用した。	引き続き、PTAと教職員による学校内の清掃奉仕作業を中心に、協働による教育環境の整備を図るとともに、市職員もこれらの活動に積極的に参加するなどして、更なる協働を目指す。

《実績評価》	
(1) 基本計画指標の達成度（総務係）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年度に市内小中学校の内、唯一文部科学省の耐震基準を満たしていない西小学校屋内運動場の耐震改築工事が完了した。</li> <li>教育用コンピュータの普及には、コンピュータの導入とICT環境の整備との両輪で進めていく必要があり、平成26年度は3校で光回線を導入した。導入台数についても平成25年度にパソコン教室のコンピュータを1人1台配備するなど、1人でも多くの児童生徒が快適な環境でコンピュータを使用できるための整備に努めている。</li> </ul>	
(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度	
【01総合的教育行政の推進】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者、学校関係者等で構成する「小中学校施設管理のあり方検討会」を平成22年度から引き続き開催した。会議では、小中学校施設の耐震化、学校給食の進捗状況及び平成27年1月に文部科学省が策定した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」に基づき市内小中学校施設の適正配置について意見交換を行った。</li> </ul>	
【03学校給食のあり方の検討】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校給食の早期実現を目指す中でも、食物アレルギーなどの安全対策を確保し、将来に渡って安定的な調理体制を構築していくことが求められていることを踏まえ、調理場の集約や民間委託の導入等を進めることにより、体調不良（感染症拡大の未然防止）等、急遽の欠員が生じても学校間のヘルプ要員の派遣により安心して給食が提供できる体制を確保していく。平成26年度も昨年度に引き続き任用替えに伴い調理員が減少する中、宇佐美小と宇佐美中との親子方式給食を民間委託により開始するなどして2.0人配置を維持した。</li> </ul>	

方策コード 2桁	4桁	手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
01		総合的教育行政の推進					01総合的教育行政の推進 ・文部科学省策定「公立小・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」に基づき、市内小中学校の適正規模を検討する組織を立ち上げ、集中的に検討を進める。
0101	学校施設管理に関する定期的意見交換の実施		検討会開催回数	2回/年 (延べ9回)	延べ回数15回	27年度	
0102	学校施設の整備		学校施設工事要望件数	139件	0件	27年度	
02		学校施設の耐震化					02学校施設の耐震化 ・西小学校屋内運動場の改築工事が完了したため、引き続き非構造部材の耐震化として川奈小学校屋内運動場及び宇佐美中学校屋内プールの天井にネットを敷設し、南中学校武道場の天井パネルの撤去を行う。
0201	要耐震化施設の耐震化（小学校）		耐震化未実施棟数	0棟	0棟	27年度	
0202	要耐震化施設の耐震化（中学校）		耐震化未実施棟数	0棟	0棟	27年度	
03		学校給食のあり方の検討					03学校給食のあり方の検討 ・0301 下田高校に設置した県の専門機器を活用しての測定を引き続き実施するとともに、県内自治体の測定結果も注視しながら食材の選定に努める。 ・0302 6月に実施する「ふるさと給食週間」を活用し、引き続き地産地消を推進する。 ・0303 引き続き2.0人体制（急遽の欠員が生じても学校間のヘルプ要員の派遣可能な体制）を維持しながら、給食センター運営開始後の栄養士業務の集約体制を構築していく。 ・0304 3,000食の調理能力を持つ給食センターを建設し、給食未実施の3中学校及び近隣の5小学校を受配校に平成28年度2学期中の給食開始を目指す。
0301	安全な学校給食の提供		専門機器による給食食材の放射性物質検査の実施数	8回31食材 (いずれも検出無し)	継続実施	27年度	
0302	魅力ある学校給食の提供		給食食材における県内産品の活用割合	52.8%	52.8%以上	27年度	
0303	安定的な調理体制の構築		給食実施校（委託校を除く。）1校当たりの正規調理員の配置人数	2.1人 (15人/7校)	2.0人以上	27年度	
0304	中学校給食の実施に向けた検討		給食センター建設の進捗状況	設計業務完了	完成	27年度	
04		情報教育環境整備の充実					04情報教育環境整備の充実 ・第2期教育振興基本計画（H26～H29）の整備目標を踏まえ、平成27年度までに当該計画の1/3程度を達成するため、地方財政措置や国の交付金（補助）制度の活用により、教育用コンピューター1台当たりの生徒数3.6人、電子黒板・実物投影機の普通教室への配備、超高速インターネット接続率及び無線LAN整備率100%、教育用ソフトやICT支援員の配置に向けた計画的な導入を進める。 ・中学校5校について、平成27年9月稼働を予定している教育用パソコンの更新に向け、目標に近づけるような機器構成の実現を目指す。 ・超高速インターネットへの加入校数の増加を目指す。
0401	教育用パソコン整備		パソコン台数	601台	500台 (1,420台)	27年度 (29年度)	
0402	電子黒板の普通教室配置		設置台数	15台	60台 (182台)	27年度 (29年度)	
0403	実物投影機の普通教室配置		設置台数	0台	60台 (182台)	27年度 (29年度)	
0404	超高速インターネット接続		接続済校数	3校	5校 (15校)	27年度 (29年度)	
0405	無線LAN整備率		整備済校数	0校	5校 (15校)	27年度 (29年度)	
0406	校務用コンピューター1台当たりの教員数		設置台数	313台	313台	27年度	

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち
施策分野	2	教育の充実（幼稚園）

課（係）名	幼児教育課（幼稚園）		
作成年度	平成27年度	（更新日）	平成27年4月1日

目的	管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H24年度末)	(H25年度末)	備考	
基本計画	どの子ども夢を持ち、のびのびと活動する園のあるまちを目指します。	幼稚園の活動や行事が子どもにとって楽しい内容になっている割合	99.0%	99.0%	27年度	97.0%	99.0%	幼稚園評価アンケート結果による
目的を達成するための具体的な方策	01 幼稚園教育の充実	教育課程の編成等小学校と連携している園数	全園	全園	27年度	全園	全園	県で実施している「幼児教育に係る実態調査」を準用し、アンケートを実施
	02 保護者と共に子どもの育ちを支える	子育て支援事業を実施している幼稚園の割合	100.0%	100.0%	27年度	100.0%	100.0%	
	03 集団保育を実施するための環境整備	複式学級の幼稚園数	2園	1園	27年度	2園	2園	川奈・池
	04 子育てニーズに応じた幼保連携の推進	教諭・保育士資格の併有率	86.7%	90%	27年度	85.4%	85.4%	正規職員

市民との協働方策	《平成26年度末時点の活動状況》		《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 地域行事、園行事を通しての地域住民との相互交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の祭典への参加</li> <li>・高齢者施設への訪問、中高生の実習の受け入れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流を推進できるような園行事を積極的に教育課程の中に組み込むよう検討する。</li> <li>・中高生との異世代交流を推進する。</li> </ul>

## 《実績評価》

## (1) 基本計画指標の達成度

- ・調査結果によると基本計画の目的は、概ね達成されている。

## (2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度

【01幼稚園教育の充実】「伊東市保幼小連携プログラム」をもとに、小学校、保育園との更なる連携の強化を図った。

【02保護者と共に子どもの育ちを支える】子育て支援機能の強化に向けて、子育て講演会の実施を積極的に行った。

【03集団保育を実施するための環境整備】小規模園の保育環境の適正化にむけて、休園を予定する幼稚園、保護者等との意見交換を行った。

【04子育てニーズに応じた幼保連携の推進】幼稚園教諭の採用は教諭免許と保育士資格の両方を条件とするため、長期的に見ると併有率は増加すると見込まれる。

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01		幼稚園教育の充実					01 幼稚園教育の充実 <b>【重点方向】</b> ・平成23年度に策定した「伊東市保幼小連携プログラム」を効果的に活用し、保幼小の交流、連携を実施する。 <b>【改善のポイント】</b> ・中堅職員を対象とする相談援助研修を実施する。
	0101	地域の特色を生かした保育計画の策定	保育計画策定園数	全園	全園	25年度達成	
	0102	保育園・小学校との交流活動の推進	幼・保・小の交流実施園	全園	全園	26年度達成	
	0103	幼児教育向上のための研修会への参加等	研修会参加者数	教諭全員	教諭全員	25年度達成	
02		保護者と共に子どもの育ちを支える					02 保護者と共に子どもの育ちを支える <b>【改善のポイント】</b> ・幼稚園における特別支援教育の強化のため、保護者や各幼稚園からの相談・支援を行う相談窓口を開設する。
	0201	幼稚園を拠点とする子育て支援の推進	子育て支援事業の実施園	全園	全園	25年度達成	
	0202	PTA奉仕活動の促進	活動園数	8園	13園	27年度	
	0203	子育て相談窓口の設置	相談窓口数	なし	1か所	27年度	
	0204	要耐震化施設の耐震化	未実施施設数	2園	0園	27年度	
03		集団保育を実施するための環境整備					03 集団保育を実施するための環境整備 <b>【重点方向】</b> ・平成20年教育門会懇話会答申「伊東市立幼稚園のあり方について」に基づき、平成26年度から伊東幼稚園と湯川分園を統合、平成28年度から川奈幼稚園を休園とする。
	0301	3歳児保育の実施園数	3歳児保育の充実	全園	全園	25年度達成	
	0302	幼稚園規模の適正化	幼稚園の統廃合	13園	12園	27年度	
04		子育てニーズに応じた幼保連携の推進					04 子育てニーズに応じた幼保連携の推進 <b>【改善のポイント】</b> ・認定こども園を見据えた幼稚園、保育園の職員相互研修、勉強会を実施する。
	0401	幼保職員交流の推進	幼保連携に関する研修会の開催数	8回	8回	27年度	
	0402	幼稚園での預かり保育の実施	実施園数	なし	3回	27年度	

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち	課（係）名	◎教育指導課 ○教育総務課	
施策分野	3	教育の充実（小・中学校）	作成年度	平成27年度（更新日）	平成27年4月1日

目的		管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移		
						(H24年度末)	(H25年度末)	備考
基本計画	将来に夢を持ち、どの子ども生き生きと活動する学校のあるまちを目指します。	学校が楽しいと思う子どもの割合	<小学校> 90.6%	<小学校> 95%	27年度	<小学校> 91.6%	<小学校> 90.0%	03 県教育委員会実施の朝食摂取状況調査（幼・小・中全員を対象）における摂取割合
			<中学校> 82.0%	<中学校> 90%		<中学校> 84.7%	<中学校> 80.9%	
目的を達成するための具体的な方策	01 基礎学力の向上	授業が分かると思う子どもの割合	<小学校> 89.5%	<小学校> 90%	27年度	<小学校> 87.4%	<小学校> 87.4%	
			<中学校> 78.1%	<中学校> 80%		<中学校> 75.6%	<中学校> 75.9%	
	02 豊かな人間性・社会性の育成	近所や知り合いの人にあいさつをしている子どもの割合	<小学校> 89.1%	<小学校> 95%	27年度	<小学校> 88.0%	<小学校> 86.6%	
			<中学校> 87.6%	<中学校> 95%		<中学校> 88.2%	<中学校> 86.2%	
	03 健康な身体と基本的な生活習慣づくりの推進	朝食を摂取している子どもの割合	98.2%	100%	27年度	95.3%	97.4%	
	04 地域連携・地域交流の推進	地域の行事や活動に積極的に参加している子どもの割合	<小学校> 79.1%	<小学校> 80%	27年度	<小学校> 76.3%	<小学校> 77.3%	
			<中学校> 62.6%	<中学校> 70%		<中学校> 64.2%	<中学校> 62.9%	
	05 教育的支援体制の充実	教育的支援が必要な子どもに必要な支援の提供	適正処理	適正処理	27年度	適正処理	適正処理	

市民との協働方策	《平成26年度末時点の活動状況》		《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 学校行事への積極的な参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会、文化祭等学校行事への参加</li> <li>・授業参観、オープンスクールの実施</li> <li>・青少年育成会との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事やPTA活動等において、保護者や地域の方に積極的に情報を発信し、協働して教育の充実を図る。</li> </ul>

《実績評価》

(1) 基本計画指標の達成度

- ・目標値には達成していないながらも、小学校で9割以上、中学校で8割以上の子どもたちが学校が楽しいと回答している。
- ・管理指標の「学校が楽しい」については、子どもたちにわかりやすい具体的な説明をすることで、より正確な数値としていきたい。

(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度

- ・概ね年々数値が上昇し、目標値に近づいている。
- ・管理指標の「授業が分かる」や「地域の行事」等抽象的な表現については、アンケートの際、具体的な例を示すことでより正確な数値としていき、確実に目標達成に繋げていきたい。

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01 基礎学力の向上							
0101	教職員の資質向上	市教育奨励賞応募者数	実人数11人/年	実人数15人/年	27年度	0101 教職員のコンプライアンス意識を高め、体罰を含めた不祥事を根絶し、児童生徒等の信頼感を高めていく。	
			〈小学校〉 88.6%	〈小学校〉 95%	27年度		
		信頼できる先生がいてと答えた子どもの割合	〈中学校〉 71.3%	〈中学校〉 80%	27年度		
0102	指導主事の学校訪問	訪問等による指導	適正処理	適正処理	27年度		
0103	教育研究の推進	教育研究の成果の発表・共有化	適正処理	適正処理	27年度		
0104	外国語活動の推進	外国人や外国人の文化に興味をもち、積極的に接している子どもの割合	〈小学校〉 65.3%	〈小学校〉 70%	27年度		
			〈中学校〉 53.1%	〈中学校〉 60%	27年度		
0105	読書好きな子どもの育成	1週間に1回以上読書している子どもの割合 (漫画・雑誌・教科書を除く)	〈小学校〉 76.8%	〈小学校〉 80%	27年度	0105 平成27年度から学校司書及び支援員を3校に1人配置し、読書に親しむ子どもの育成に努めていく。	
			〈中学校〉 62.9%	〈中学校〉 70%	27年度		
02 豊かな人間性・社会性の育成							
0201	あいさつの奨励	近所や知り合いの人にあいさつをしている子どもの割合	〈小学校〉 89.1%	〈小学校〉 95%	27年度	0202 道徳教育の一層の充実を図り、児童生徒の道徳性を高め、いじめのない学校づくりを進めていく。	
			〈中学校〉 87.6%	〈中学校〉 95%	27年度		
0202	道徳教育の充実	困っている人には手助けをすると答えた子どもの割合	〈小学校〉 87.5%	〈小学校〉 95%	27年度		
			〈中学校〉 84.5%	〈中学校〉 90%	27年度		

0203 環境教育の充実	環境を守ることの大切さを理解した行動をしている子どもの割合	<小学校> 85.7%	<小学校> 90%	27年度	
		<中学校> 79.8%	<中学校> 90%	27年度	
03 健康な身体と基本的な生活習慣づくりの推進					
0301 安定した生活習慣づくりの推進	朝食を摂取している子どもの割合	98.2%	100%	27年度	0301 引き続き朝食摂取の大切さについて、全児童・生徒を対象にお便りを配布する等の取組を進める。  0303 平成26年度に立ち上げた「伊東市体力検証委員会」において、児童生徒の体力・運動能力・運動習慣の実態や課題を明確にし、体育指導や体育活動の検討及び具体的な取組を実践していく。
0302 園児児童生徒の健康診断・各種検診の実施	診断結果による健康指導（市主催による個別相談会の開催）	生活習慣病予防個別相談会の開催	継続開催	27年度	
0303 体力・運動能力の向上	新体力テスト（8種目）結果が県平均以上である種目数	<小6> 男子： 8種目/8種目 女子： 8種目/8種目 <中3> 男子： 4種目/8種目 女子： 1種目/8種目	<小6> 男子： 8種目/8種目 女子： 8種目/8種目 <中3> 男子： 8種目/8種目 女子： 8種目/8種目	27年度  27年度	
04 地域連携・地域交流の推進					
0401 防災教育の実施	地域と学校との連携による防災訓練の実施	適正処理	適正処理	27年度	0401 「伊東市立学校防災対策方針」に基づき、地域と学校との連携を一層深め、協力・協同で防災活動を進めていく。
0402 地域との積極的なかかわり	地域の行事や活動に積極的に参加している子どもの割合	<小学校> 79.1%	<小学校> 80%	27年度	
		<中学校> 62.6%	<中学校> 70%	27年度	
0403 学校評価及び学校評議員制度の活用	P T Aや地域住民の意見や評価の学校運営への反映	適正処理	適正処理	27年度	
0404 子供達の安全安心のための地域協力	地域住民のパトロール、パンダの家等	適正処理	適正処理	27年度	
05 教育的支援体制の充実					
0501 小学校低学年学級支援の充実	小学校において、低学年の多人数学級への支援員の配置	実人数5人	実人数10人	27年度	0501 小学校1年生については、学習指導の他きめ細やかな生活指導も必要である。スムーズな小学校生活を送るための支援を充実させる。
0502 特別支援教育支援の充実	小・中学校の通常学級において、特別な支援が必要な児童生徒に支援員を配置	実人数15人	実人数20人	27年度	0502 特別支援学校、特別支援学級程度ではないが、通常学級の中で特別な支援が必要な児童生徒に対する支援を充実させる。

0503 適応指導教室の充実	通級により改善し高校進学及び就職に繋がった割合	100%	70%	27年度	303 特別な支援が必要な児童が年々増加することに伴い、通級児童も激増している。単学級では十分な対応が難しいため、継続し県へ増級を要望していく。
0504 教育相談室の充実	相談支援事業の周知	適正処理	適正処理	27年度	
0505 通級指導教室の充実	通級指導教室での指導が望ましいが、入級できていない児童	実人数2人	0人	27年度	



政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち
施策分野	4	生涯学習活動の推進

課（係）名	生涯学習課	
作成年度	平成27年度（更新日）	平成27年4月1日

目的	管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H24年度末)	(H25年度末)	備考	
基本計画	市民が生涯を通じていつでもどこでも快適に学習できるまちを目指します。	市民1人当たりの生涯学習活動の参加回数	2.23回	2.59回	27年度	1.91回	1.89回	各施設で生涯学習を行った人数の合計を年度末人口で除した数値
		市民1人当たり図書貸出し冊数	3.10冊	4.50冊	27年度	3.05冊	2.98冊	貸出総数（相互借受を含む）を年度末人口で除した数値
目的を達成するための具体的な方策	01 生涯学習機会の提供	中央会館・ひぐらし会館に登録している団体の数	775団体	780団体	27年度	705団体	735団体	
	02 市民の自主的生涯学習活動の推進	市民1人当たりの生涯学習活動の参加回数	2.23回	2.59回	27年度	1.91回	1.89回	
	03 図書館機能の充実	市民1人当たり図書貸出し冊数	3.10冊	4.50冊	27年度	3.05冊	2.98冊	

市民との協働方策	《平成26年度末時点の活動状況》		《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 自主的な生涯学習活動の広がり	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年度は中央会館空調工事のため、12月から2月まで4階各室が使用できなかったが、市民の生涯学習活動は引き続き活発であった。</li> <li>市民大学の講座より新たなサークルが誕生した。（絵手紙講座）</li> </ul>	

<p>《実績評価》</p> <p>(1) 基本計画指標の達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民大学、いでゆ大学等の事業展開により、広く市民に生涯学習機会を提供したことで、受講生による自主サークルの創設が図られ中央会館・ひぐらし会館に登録している団体の数は順調に増加している。</li> </ul> <p>(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成26・27年度版「まなびのとびら」を作成し、平成26年4月1日より生涯学習センター・コミュニティーセンターの各所で配布し、市民の一層自主的な活動を応援している。</li> <li>各施設利用者の利用希望日が重複する時は、他の施設を紹介し、調整に努めている。</li> <li>図書館においては、図書資料・情報収集の充実を図ったことにより1人あたりの図書等の貸出冊数を増やすことができた。今後も図書館の資料・情報の収集を積極的に取り組んでいく。</li> </ul>
--

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01 生涯学習機会の提供							
	0101	学習施設貸出備品の整備	生涯学習センター貸出備品数	16品目	20品目	27年度	01生涯学習機会の提供 ・「まなびのとびら」の団体数は、指導者の高齢化による解散や個人情報流失を恐れ、掲載しない団体が増加したことから24-25年度よりも団体数が減っているが、各団体の活動は活発となっていることから、市のホームページに掲載する等を検討し更なる情報の提供を図る。 ・生涯に渡って、学習することはいつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような社会を築くことである。行政のみの活動だけではなく、市民による自主的な生涯学習活動の広がりがあって初めて達成する。このことから、引き続き市民の自主的活動の推進に寄与していく。
	0102	学習情報の収集・発信	学びのとびらによる活動状況を掲載する団体数	231団体	270団体	27年度	
	0103	生涯学習指導者登録数	市ホームページに公開している生涯学習指導者の登録数	61人	100人	27年度	
	0104	生涯学習団体の情報提供	広報いとう等で生涯学習団体の市民に情報提供した件数	22件	22件	27年度	
02 市民の自主的生涯学習活動の推進							
	0201	市民向け学習講座・教室の開催	市民大学・いでゆ大学延べ参加者数	1,502人	1,800人	27年度	02市民の自主的生涯学習活動の推進 ・生涯に渡って、学習することはいつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような社会を築くことである。行政のみの活動だけではなく、市民による自主的な生涯学習活動の広がりがあって初めて達成する。このことから、引き続き市民の自主的活動の推進に寄与していく。
	0202	生涯学習団体への支援	生涯学習活動を積極的に行う団体数	233団体	250団体	27年度	
	0203	学習成果を活かした地域における学習交流の推進	3地域生涯学習センターと4コミュニティセンターでの自主的サークルの使用回数	延べ6,437回	延べ6,500回	27年度	
	0204	家庭教育に関する学習機会と内容の充実	明るい家庭づくり・豊かなまちづくりを目的に幼稚園・小学校で実施されている家庭教育学級の実施校数	8校	9校	27年度	
03 図書館機能の充実							
	0301	図書資料の充実	図書館蔵書冊数	187,674冊	188,000冊	27年度	03図書館機能の充実 ・引き続きゴールデンウィークと月曜日による振替休館火曜日を特別開館し、市民の利便性を高める。 ・移動図書館車のステーションを見直し、効率的な運行を実施する。
	0302	図書貸出冊数	図書貸出冊数	221,357冊	321,000冊	27年度	
	0304	移動図書館車の巡回	移動図書館車の貸出冊数	29,602冊	30,000冊	27年度	
	0305	図書館利用者の増加	実利用人数	6,488人	7,000人	27年度	

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち
施策分野	5	市民スポーツ活動の支援

課（係）名	生涯学習課	
作成年度	平成27年度（更新日）	平成27年4月1日

目的	管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H24年度末)	(H25年度末)	備考	
基本計画	市民が気軽に快適にスポーツができるまちを目指します。	スポーツ施設の利用状況	311,371人	330,000人	27年度	327,578人	299,759人	スポーツ施設…社会体育施設、学校施設
目的を達成するための具体的な方策	01 スポーツ指導者の養成	指導者数	78人	110人	27年度	84人	87人	指導者数…スポーツ推進委員、スポーツ少年団指導者の合計
	02 スポーツ大会の実施	回数、参加人数	5回 10,060人	6回 11,110人	27年度	6回 10,539人	5回 10,701人	按針祭協賛スポーツ祭、伊東市スポーツ祭、陸上カーニバル、オレンジビーチマラソン、伊東駅伝、地域体育振興会スポーツ大会
	03 体育施設の整備	既存施設大規模改修及び新設体育施設整備に向けた取組み等の回数	1回	5回	27年度	—	3回	既存施設の改修、総合体育館等体育施設の新設・建替等の整備に向けた調査・研究、県営施設等の誘致

市民との協働方策	《平成26年度末時点の活動状況》		《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》	
	01 スポーツ活動への参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ推進委員による各種健康教室等の講師としての活動</li> <li>・スポーツ少年団活動</li> <li>・各大会運営への地域体育振興会、市民、高校生ボランティアの参加</li> <li>・地域体育振興会主催の地域体育大会の開催</li> <li>・伊東市振興公社主催のウェルネス教室等スポーツ教室の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オレンジビーチマラソンは第50回の記念大会となるため、節目の大会にふさわしいものになるよう検討を重ねる。</li> <li>・駅伝大会は、前年度一部コース変更をしたため、反省事項を再検討し円滑な運営を図る。</li> <li>・各種スポーツ大会の周知に努める。</li> <li>・スポーツ大会への高校生、中学生等の参加拡大を図る。</li> <li>・市町対抗駅伝の参加を市民へ周知し、スポーツの関心を深めるとともに、選手候補者として幅広く募集し選手の強化を図る。</li> </ul>	

《実績評価》
(1) 基本計画指標の達成度
・目標には及ばなかったものの一定の実績は得られた。近年の健康志向の高まりや東京五輪の決定など、スポーツに対する関心も高まっており、更なる生涯スポーツ人口の拡大に努めている。

(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度

【01スポーツ指導者の養成】スポーツ推進委員、スポーツ少年団指導者等に指導者研修等を斡旋した。

【02スポーツ大会の実施】各種競技スポーツ大会の実施については、体育協会等関係団体と連携し実施した。

【03体育施設の整備】既存施設整備は、振興公社と協議して修繕等を積極的に実施し、快適な利用を推進した。また、体育施設の整備のため、伊東市体育施設整備基金条例に基づき寄附金を募った。

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01		スポーツ指導者の養成					01スポーツ指導者の養成 ・スポーツ推進委員は、就労者であるため、委員としての活動と就労とが支障ないよう配慮し支援する。 ・少子化の中であるが、スポーツ少年団の活動をPRするなどして団員確保等支援していきたい。 ・スポーツ推進委員やスポーツ少年団指導者は、専門的、技術的指導や助言を行うことから県や県スポーツ団体が行う指導者研修会への積極的な参加を依頼する。
	0101	スポーツ推進委員の養成	スポーツ推進委員数	13人	18人	27年度	
	0102	スポーツ少年団指導者の養成	スポーツ少年団指導者数	65人	90人	27年度	
	0103	スポーツ指導者研修会への参加促進	研修会参加者延べ人数	6人	60人	27年度	
02		スポーツ大会の実施					02スポーツ大会の実施 ・各スポーツ大会等について、会場確保が競合しないよう、適切に調整していく。 ・陸上カーニバルについては、更なる参加者の増員を図るため、学校等に対し働き掛けをする。 ・オレンジビーチマラソンについては、近年の参加者増のため、コースの拡大等関係機関と協議し、内容の充実や円滑な運営に努めたい。 ・伊東駅伝については、平成25年度の大会でコース変更を行ったため、再度検証し、より円滑かつ選手の安全性を確保した運営に努めたい。 ・地域スポーツの主体となる、体育振興会が設立されていない地域に設立の働き掛ける。 ・スポーツ活動の受け皿として、地域スポーツクラブの設立に努める。
	0201	按針祭協賛スポーツ祭	参加者数	3,676人	4,200人	27年度	
	0202	伊東市スポーツ祭	参加者数	2,631人	3,200人	27年度	
	0203	陸上カーニバル	申込者数	697人	700人	27年度	
	0204	オレンジビーチマラソン	申込者数	2,640人	3,000人	27年度	
	0205	伊東駅伝	申込者数	416人	450人	27年度	
	0206	地域体育振興会スポーツ大会	参加者数	0人	50人	27年度	
	0207	地域スポーツクラブの育成	クラブ数	2団体	3団体	27年度	
03		体育施設の整備					03体育施設の整備 ・体育施設整備については、(公財)伊東市振興公社等と連絡を密にし、適正な維持管理、修繕に努める。 ・市民体育センターは、耐震補強計画・実施設計を策定し施設の改修を進める。 ・体育施設整備基金をより周知し、市民等幅広く寄附金を募る。 ・体育施設建設のため、他市町の新設体育館の視察等を行い、調査、研究に努める。
	0301	既存施設の修繕、改修	既存施設大規模改修等	0回	既存施設大規模改修に向けた取組み等 2回	27年度	
	0302	総合体育館の建設に向けた調査・研究	総合体育館の建設に向けた調査・研究回数等	1回	建設費用・候補地の調査・研究等 3回	27年度	

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち	課（係）名	生涯学習課
施策分野	6	歴史・芸術文化の振興	作成年度	平成27年度（更新日） 平成27年4月1日

目的	管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H24年度末)	(H25年度末)	備考	
基本計画	市民が気軽に歴史、芸術文化に触れることができるまちを目指します。	歴史文化に触れた人数	11,454人	15,850人	27年度	11,375人	10,261人	
		芸術文化に触れた人数 ・(芸術祭への出演・出品人数) ・(芸術祭の観客人数)	1,814人 11,215人	2,200人 12,000人	27年度	2,000人 10,624人	1,898人 11,011人	
目的を達成するための具体的な方策	01 歴史、芸術文化に触れる機会の創出	市内文化施設及び市芸術祭の入場者等	22,669人	30,050人	27年度	23,810人	22,435人	
		文化イベントの誘致件数	0件	2件	27年度	0件	0件	
	02 歴史文化情報の発信	講演会等の参加人数	133人	850人	27年度	189人	349人	
		文化財保護啓発イベントの実施件数	1件	4件	27年度	1件	3件	
		インターネットによる文化情報のアクセス数	2,641回	5,000回	27年度	1,947回	2,708回	
	03 芸術文化活動の支援	伊豆美術祭・後継者育成・文化イベントへの支援件数	64件	70件	27年度	55件	50件	

市民との協働方策	《平成26年度末時点の活動状況》		《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 文化や文化財を愛護する市民や市民団体との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の芸術文化活動の成果発表を通じ、市民の芸術文化に対する意識向上を図る芸術祭を開催した。</li> <li>次世代に伝統文化を残すため、子どもに対する伝統文化育成事業への助成を行った。</li> <li>文化協会と協働し、市民の文化振興に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化協会を中心に市内文化団体と連携し市民の芸術文化活動の活性化を図る。</li> <li>文化財愛護団体と連携し、文化財や歴史についての普及に努めていく。</li> </ul>

<p>《実績評価》</p> <p>(1) 基本計画指標の達成度 ・前年度と同等の数値実績であったので、今後、実施事業の見直しを図りながら市民との協働を進めて行く</p> <p>(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度 【01歴史、芸術文化に触れる機会の創出】若年層への文化芸術活動の普及を進める必要がある。 【02歴史文化情報の発信】情報発信について、学校等へのPR活動を積極的に行った。イベントの内容等については今後も検討していく。 【03芸術文化活動の支援】伝統文化を次世代に伝える事業を実施する団体を積極的に支援し、市民が文化に触れる機会を創出した。</p>
--

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01		歴史、芸術文化に触れる機会の創出					<ul style="list-style-type: none"> <li>・拓本コンクールは2か年1事業で、平成26年度は申込年あたり、申込者数は41人であった。</li> <li>・市民に地域の歴史・文化に興味を持ってもらうため、展示資料の公開活動や文化財に関する講座を行う。</li> <li>・芸術祭は、参加者や団体が自主的に運営できるよう改善していく。</li> <li>・地域の文化財看板の点検など、愛護する団体や市民と連携しながら、広報を充実させていく。</li> <li>・インターネットHPを充実させていく。</li> </ul>
	0101	市内文化施設の入場者数	木下奎太郎記念館、文化財管理センター入館者数、観光会館文化事業入場者数	11,454人	13,000人	27年度	
	0102	市芸術祭の開催	出品者数、参加者数、観客数	13,029人	14,000人	27年度	
	0103	演奏会、展示会等の文化イベントの誘致	誘致件数	0件	1件	27年度	
	0104	文化に触れる事業の開催	拓本コンクール出品者数	41人	60人	27年度	
	0105	文化財等に関する講座・教室の開催	参加者数	80人	100人	27年度	
02		歴史文化情報の発信					<ul style="list-style-type: none"> <li>・市史編さん事業で刊行した図書や調査成果等を活用した市史講座や講演会を積極的に開催し、歴史、文化情報の発信に努める。</li> </ul>
	0201	伊東市史編さん資料の公開	講座、講演会参加者数	133人	200人	27年度	
	0202	文化財保護啓発イベントの実施	イベント件数	1件	4件	27年度	
	0203	インターネットによる文化情報の発信	アクセス数	2,641回	5,000回	27年度	
03		芸術文化活動の支援					<ul style="list-style-type: none"> <li>・市史編さん事業で刊行した図書や調査成果等を活用した市史講座や講演会を積極的に開催し、歴史、文化情報の発信に努める。</li> </ul>
	0301	伊豆美術祭への支援	出品点数、入場者数	奇数年開催のため 0点、0人	550点、2,000人	27年度	
	0302	文化育成への支援	伝統文化子ども育成支援数	6件	8件	27年度	
	0303	文化イベントへの支援	後援件数	54件	70件	27年度	
	0304	文化協会加盟団体に対する支援	後援件数	10件	20件	27年度	

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち
施策分野	7	国際交流の推進

課（係）名	市長公室課		
作成年度	平成27年度	（更新日）	平成27年4月1日

目的	管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H24年度末)	(H25年度末)	備考	
基本計画	身近な所で異文化交流が楽しめるまちを目指します。	国際交流に関する体験や行事に参加した市民の割合	11.4%	18.5%	27年度	9.1%	13.0%	平成24・25・26年実施の市民満足度調査（「よく参加している」「参加したことがある」の割合を足したもの）
目的を達成するための具体的な方策	01 国際交流事業の推進	国際交流イベント参加者数	1,600人	1,700人	27年度	1,600人	1,300人	
	02 外国人住民の日常生活環境の支援	日本語教室受講者数	910人	1,000人	27年度	805人	646人	平成27年5月の国際交流協会総会で確定
	03 国際理解の啓発	国際交流関係講座数	3講座	6講座	27年度	4講座	5講座	

市民との協働方策	《平成26年度末時点の活動状況》		《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 市民参加による国際交流イベントの実施	国際交流フェスタは、市民が異文化に触れる機会となっている。今回は開催日を3月後半に移し、天気にも恵まれ前年より来場者数が増加した。新たにステージを2か所にわけ、様々な催しを開催したほか、飲食ブースを国道側にまとめ、出店数を増やしたことにより、利用しやすく多くの来場者でにぎわった。今回は外国ブースにブラジル・イトゥ市も参加し、異国情緒あふれる雰囲気の中、異文化交流の機会を提供することができた。	国際交流フェスタへの参加市民を増やし、国際交流への関心を深めてもらう。

《実績評価》			
(1) 基本計画指標の達成度			
・平成26年度は新たに英会話、中国語会話講座を実施し、市民がより身近に外国語に触れる機会を増やした。			
(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度			
・市内で行われる最大の国際交流イベントである国際交流フェスタは、参加者が年々増加している。H26は天気にも恵まれ、前年に比べ来場者数は増加した。			
[参加者数]	フェス	+	他イベント = 国際交流イベント参加者
H21	1,000人	+	200人 = 1,200人
H22	1,300人	+	200人 = 1,500人
H23	1,300人	+	200人 = 1,500人
H24	1,400人	+	200人 = 1,600人
H25	1,100人	+	200人 = 1,300人
H26	1,400人	+	200人 = 1,600人

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 （H26年度末）	目標	期限	《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01 国際交流事業の推進							
0101		友好都市（イギリス・モントゥエイ市、イタリア・リエティ市）及び友好交流都市（アゼルバイジャン共和国・イスマイル州）等	交流回数	9回	10回	27年度	01国際交流事業の推進 ・他のイベントの参加市民を増やす方策を試みる。 ・27年度は、リエティ市との友好都市締結30周年を迎える。リエティ市訪問団を伊東に迎え、記念行事を通して友好親善の再確認を行う。
0102		国際交流協会の活動の促進	国際交流協会会員数	432人、38団体	400人、45団体	27年度	
0103		国際交流フェスタの開催	入場者数	1,400人	1,500人	27年度	
02 外国人住民の日常生活環境の支援							
0201		外国人市民相談の充実	相談件数	6件	5件	27年度	02外国人住民の日常生活環境の支援 ・日本で生活していく上で、外国人が日本語を学べる場は大変貴重なため、継続実施できるよう支援していきたい。
0202		日本語教室の周知と充実	受講者延べ人数	910人	延べ1,000人	27年度	
0203		C A T Vによる外国人市民向け情報の英語放送	放送回数	毎日5回	毎日5回	27年度	
0204		伊東市ホームページの外国語翻訳	翻訳言語数	4言語	4言語	27年度	
03 国際理解の啓発							
0301		外国語教室の開催	開設講座数	4講座	4講座	27年度	03国際理解の啓発 ・異文化を理解するため、外国を知る機会となる講座を今後も数多く開催したい。
0302		学校へ国際友好都市紹介講座の派遣	派遣回数	3回	4回	27年度	
0303		異文化理解講座の開催	開催講座数	1講座	2講座	27年度	



政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち
施策分野	8	青少年の健全な育成

課（係）名	生涯学習課		
作成年度	平成27年度	（更新日）	平成27年4月1日

目的	管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H24年度末)	(H25年度末)	備考	
基本計画	青少年が豊かな人間性、社会性を身につけ、健やかに育つまちを目指します。	あいさつ運動賛同者数	16,588人	17,100人	27年度	16,043人	16,343人	
目的を達成するための具体的な方策	01 声かけ・あいさつ運動の推進	あいさつ運動賛同者数	16,588人	17,100人	27年度	16,043人	16,343人	
	02 非行防止体制の強化	青少年補導の参加率	61.29%	80.00%	27年度	58.39%	60.00%	
	03 青少年健全育成活動の活発化	小学生ふるさと教室の参加延べ人数	566人	580人	27年度	399人	393人	
	04 次世代を担うリーダーの育成	夢チャレンジくらぶの参加延べ人数	18人	100人	27年度	28人	42人	

市民との協働方策	《平成26年度末時点の活動状況》		《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》	
	01 地域の青少年声かけ活動の推進	10年目を迎えたあいさつ運動は、事前キャンペーンと7月と11月に全市であいさつ一斉活動を実施するなど、学校、園や市民に広く周知されており、賛同者・団体ともに順調に増加している。	青少年の健全育成には、地域の大人の意識を高めることが重要であるということを理解してもらうため、声かけ・あいさつ運動の活動に対する一層の推進を図ることを通して、地域全体で青少年の育成に関わっていくよう努める。	

《実績評価》

(1) 基本計画指標の達成度

- ・平成26年度も一斉活動に先立って事前キャンペーンを実施し、7月と11月に全市であいさつ一斉活動を広く市民に周知した。
- ・あいさつ運動賛同者だけに配布していた広報誌「あいさつ瓦版」をより多くの市民に周知するため、回覧板での周知に変更したことにより賛同者が増加した。

(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度

- ・あいさつ運動賛同者は着実に増えている。
- ・青少年補導員は少しずつではあるが参加率が増えており、各地域での積極的な補導活動が進められている。
- ・夢チャレンジくらぶに参加する中高生の確保に苦慮しているため市内中高生への周知の強化に努める。

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 （H26年度末）	目標	期限	《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01 声かけ・あいさつ運動の推進							
	0101	地域におけるあいさつ運動の推進	自治会等の地域団体の賛同数	64団体	70団体	27年度	<p>・地域社会での人間関係の希薄化、家庭や地域の教育力の低下などから青少年の様々な課題や問題が生じている。</p> <p>このような状況を改善するには子供の問題は大人の問題であるという意識を高め、地域の力を向上させることで問題の解決となることから、地域住民一人一人が地域への所属感をもちより良い人間関係を構築する。この活動として地域における声かけ・あいさつ運動や非行防止を積極的に推進し、地域づくり、家庭づくりにつなげる。</p>
	0102	小・中学校におけるあいさつ運動推進	小・中学校でのあいさつ運動の実施回数	720回	750回	27年度	
	0103	あいさつ運動の広報	あいさつ瓦版・広報掲載回数	6回	8回	27年度	
	0104	あいさつ運動の啓発	あいさつ標語コンクールの提出数	3,403作品	5,000作品	27年度	
02 非行防止体制の強化							
	0201	青少年補導センターの開設による子どもたちの見守り	青少年補導への参加者数	延べ 475人	500人	27年度	
	0202	地域との連携強化	青色回転灯車両登録台数	31台	33台	27年度	
	0203	警察と連携した触法事件への対応	青少年触法事件	1件	適正処理	27年度	
	0204	有害環境浄化対策の推進	指導施設数	0施設	0施設	27年度	
03 地区青少年健全育成活動の活発化							
	0301	地域における人づくりと人材活用	学年の異なる小学生が家庭から離れ共同生活をし自立心と互いに助け合う心を育む通学合宿の設置学区数	3校区	6校区	27年度	
	0302	青少年育成活動の実施	放課後子ども教室の数	5教室	6教室	27年度	
	0303	青少年教育の推進	善行賞の表彰者数	67人	85人	27年度	
	0304	地域活動団体の推進	地域子ども会の会員数	1,088人	1,200人	27年度	
	0305	青少年育成市民会議の推進	地域ぐるみの青少年健全育成活動の参加者総数	450人	500人	27年度	
04 次世代を担うリーダーの育成							
	0401	リーダー育成機会の拡大	夢チャレンジクラブの参加者数	2人	10人	27年度	
	0402	少年教育の推進	小学生ふるさと教室の参加者数	56人	50人	27年度	
	0403	年少者を指導する中高生の育成	静岡県初級・中級青少年指導者認定者数	1人	12人	27年度	
	0404	地域活動団体の支援	ボーイスカウト伊東地区・ガールスカウト49・92団の活動回数の計	99回	110回	27年度	